



動き出すタイ政治——次期下院選挙の対立軸を考える

Realignment and Rupture: Thai Politics toward the Next General Election

青木（岡部）まき

Maki Aoki-Okabe

2022年8月

(5,071字)

*写真、図表は文末に掲載しています

解散総選挙に向け活発化する政党

タイ政治が動いている。2022年8月24日、憲法裁判所は、プラユット首相の任期満了時期をめぐる野党からの訴えを受けて、プラユットに対し公務停止命令を下した。首相や連立与党第1党パラン・プラチャーラット党（PPRP）の支持率は、新型コロナウイルス対策や景気回復の遅れにより低下している。連立政権内では閣僚ポストなどをめぐって不協和音が続き、PPRP党内でも議員の離党が続いた。首相はこれまで4度の不信任案審議を乗りきったものの、2023年半ばまでに行われる次期下院選挙を控え、足元は大きく揺らいでいる。

対照的に、タイ貢献党は政権奪回に向け攻勢に出ている。支持層拡大に向けて組織改革を進め、実質的な首領であるタクシン元首相も前面に出始めた。二大政党の間で、他の中小政党も静かに勢力拡大を図り、キャスティングボートを握るべく政権に揺さぶりをかけている。

2022年5月に行われたバンコク都知事選では、タイ貢献党元幹部のチャットチャートが無所属で出馬し圧勝した。地方選挙ではあるが、政治対立を超え幅広い層の支持を集めた候補の勝利は、国政選挙の動向を示唆するとして注目を集めた。

本稿では現在の政治状況を把握したうえで、2006年のタクシン政権崩壊からこれまでの経緯を振り返り、現在の対立軸や政党の立ち位置を考えてみたい。

プラユット政権の求心力低下

2021年にタイを襲った新型コロナウイルス第3波への対応をめぐる不手際で、プラユット政権に対する国民の不満が高まった。国立開発行政院（NIDA）の世論調査機関 NIDA ポールが行った調査の結果は、2021年3月以降プラユットの支持率が低下した様子を示している（図1）。

国軍に対する政権の影響力も低下した。プラユット政権は、2014年にクーデタを実施した国家平和秩序維持評議会（NCPO）を母体とし、国軍、そしてNCPOの受け皿政党であるPPRPを権力基盤としていた。その要が、NCPOの副議長であり現在はPPRP党首として政権を支えるプラウイット副首相である。陸軍第2歩兵師団出身のプラウイットは、陸軍司令官就任後に同師団出身者を軍の要職に置いて陸軍を支配し、プラユットも派閥の幹部として今の地位についた。しかし2018年以降、陸軍司令官のポストは第2歩兵師団ではなく第1歩兵師団が占めるようになった。「王の護衛」と称する同師団は現国王と繋がりが強く、プラウイットらの影響は及ばない¹。

国会におけるプラユットの地位も揺らいでいる。プラユットはPPRPを中心とする17政党の指名で首相となったが、彼自身は議員でもPPRPの黨員でもない²。またPPRP内では、NCPO以来の非政治家黨員と結党時に他党から移籍した政治家黨員の間で主導権争いが続いている（玉田2020；船津・塚田2021）。連立政権内でも、PPRPなど主要政党と中小政党の間で閣僚ポストをめぐり軋轢を抱えてきた。

政権内の亀裂は、2021年9月に行われたプラユットに対する3回目の不信任案審議で顕在化した。タイ貢献党が提出した不信任動議に対し、PPRP内から同調者が出たのである。造反を主導したのは、PPRPの幹事長であった。最大与党の幹部が党内派閥や他党の議員を糾合し首相に不信任票を投じようとしたことで、プラユットの影響力低下が露呈した（青木・高橋2022）。プラユットは不信任を免れたものの、PPRPの造反派黨員は2022年1月に離党して新党・タイ経済党を設立した。

政権奪回を狙うタイ貢献党とタクシンという両刃の剣

揺らぐプラユット政権やPPRPに対し、タイ貢献党は2020年から若年層など新しい支持者の獲得を目指し組織改革を続けてきた。同年6月には対話型の政治運動を開始し、SNSも駆使して支持者との政策対話の場を設けている。また2021年10月の党大会では、タクシン元首相の次女である35歳のペートンターンを党顧問に就任させた。これらは、2019年下院選挙で反軍政を掲げ躍進した新未来党やその後継政党である前進党を意識した戦略であり、革新派の支持基盤切り崩しを狙った措置と見られる。図1のNIDAポールの調査結果をみると、正式な首相候補ではないにもかかわらず、ペートンターンを首相候補として支

持する回答者の割合が急増しており、タイ貢献党の戦略の効果をうかがわせる。

他方で、タクシンの娘を党の顔に据えることは、両刃の剣でもある。党のタクシン色が強まれば、政治家による党の私物化を嫌う有権者の離反を招きかねない。さらには、タクシンを批判する反タクシン派が攻撃を先鋭化させる恐れもある³。

バンコク都知事選の結果が示唆するもの

以上のような状況で 2022 年 5 月に行われたのがバンコク都知事・都議会議員同時選挙であった。「国政選挙の前哨戦」といわれた同選挙では、無所属で出馬した元タイ貢献党幹部のチャットチャート（元運輸大臣）が歴史的な大量得票で都知事に当選し、都議会ではタイ貢献党が議会の 40%に当たる 20 議席を獲得した。

注目されたのは、チャットチャートがタイ貢献党だけでなく、革新派の前進黨、保守派の連立与党・民主党の支持者からも票を集めた点である⁴。チャットチャートはタイ貢献党の元幹部だが、同時に王室を支持する保守的な一族の出身でもある（*Than Sethakit* 2022）。選挙期間中、彼は「政治改革」には触れず、「すべての人のためのバンコク」を訴え、交通問題、都庁改革などの課題解決を公約として支持を集めた⁵。

PPRP が候補を一本化できず、保守派の票が割れたこともチャットチャートの追い風となった。プラユット政権に近いといわれたアサウィン前知事（独立候補）が大差で落選したことを併せて考えれば、都知事選の結果は、タイ貢献党への支持というより現政権の拒否であり、穏健な保守派から改革志向の革新派まで幅広い有権者に行政能力を訴えたチャットチャートの戦略が奏功したといえる。

ただし、都知事・都議会選挙の結果から国政選挙の動向を推測するのは注意が必要だろう。タイでは有権者の政治志向をめぐる地域的な差異が大きく、バンコク地方選挙の結果はこうした地域差の一端とも考えられるからである。

選挙制度改革をめぐる政党間の駆け引き

各党の動向に加え、選挙を左右する要因として注目されるのが、現在進行中の選挙制度改革である。現行の選挙制度は、2021 年 9 月に上下院合同会議で承認された 2017 年憲法の一部改正に基づく。その要諦は、小選挙区比例代表併用制を以前の選挙区比例代表並立制に戻し、さらに小選挙区選出議員と比例代表選出議員の議席配分を 350 人：150 人から 400 人：100 人へと変更する点にあった（表参照）。改正前の制度は、NCPO 政権下で大政党であるタイ貢献党の躍進阻止を狙い 2017 年に導入されたものである。憲法改正は、これを大政党に有利といわれた 2017 年より前の制度に戻すことを企図していた。

憲法改正案は、連立与党内のタイ矜持党をはじめ中小政党の多くの議員が棄権するなか、

大政党であるタイ貢献党や PPRP の賛成を得て成立した。両党の隠れた狙いは、革新派の野党・前進黨の躍進阻止である。前進黨は現在国会内で孤立しつつあるものの、2020 年に「王制を含む政治体制改革」を求めた革新派の支持を集める。PPRP にとって、前進黨は反プラユットの急先鋒に立つ政敵である。他方、タイ貢献党は 2019 年の下院選挙で十分な候補者を立てることができず、反軍政票を前進黨の前身であった新未来党に奪われた苦い経験がある。タイ貢献党は亡命中のタクシンに対する国王恩赦を狙っているといわれ、「王制を含む政治体制改革」には一貫して慎重な立場をとってきた。

「反前進黨」で利害の一致した PPRP とタイ貢献党が 2017 年憲法改正案を成立させたことで、次期選挙は二大政党の一騎打ちになるかと思われた。しかし、先述のように PPRP が分裂したため、次期選挙はタイ貢献党の独壇場になる可能性が出てきた。現在国会では、憲法改正を踏まえ選挙法改正審議が進行中であり、PPRP とタイ貢献党といった大政党と、その他の中小政党とに分かれ、それぞれ自らに有利な選挙法改正案を成立させるべく駆け引きを続けている。しかしどの案が成立したとしても、タイ貢献党や PPRP が単独で過半数の議席を獲得できない限り、中小政党との連立は避けられない。連立政権が成立した場合も、利害調整で不安定な状況が続くことが予想される。

何をめぐる対立なのか？

選挙制度と並び政局を左右するのが、次期選挙での争点である。以下では 2000 年代のタイ政治を振り返り、現在の対立軸や各政党の立ち位置を考えてみたい。

2000 年代半ば以来、タイの政治対立は下層と中・上層の間の階層対立を基軸に、タクシンの是非、選挙民主主義の是非、そして王室や官僚（国軍）、大企業といった上層による支配の是非といった複数の争点が重なって展開してきた。タクシンは選挙と分配政策を通じて下層の人々と結びつき、大きな権力を手にした。これに危機感を抱いた中・上層が、タクシン派政権の排除を繰り返したのが、2000 年代の選挙とクーデタの循環の実態であった（重富 2010）。

NCPO は 2014 年のクーデタでタイ貢献党政権を退けた後、受け皿政党である PPRP を通じて 2019 年の国会選挙で政権を獲得し、「民主的政権」に衣替えして王室・官僚・大企業による「特権階級」支配を永続化しようとした。これに反対したのが若者を中心とする 2020 年の反政府運動であった。若者の多くは 2019 年選挙で新未来党を支持し、PPRP 体制による「特権階級」支配の終焉と、主権在民を保障する政治体制改革を求めたのである。この時点で「タクシンの是非」という争点は後退し、「特権階級」支配と民主主義がタイ政治の対立軸となった（重富 2020; 青木 2020）。現在の各政党の立場は図 2 のようになる。

次期総選挙もこの対立軸の下で争われると思われたが、新型コロナウイルスの流行で状況は変化した。パンデミックやその後の経済低迷で、自身もまた脆弱な立場にあることに気づ

いた中間層は、下層の人々と同様にその不満をプラユット政権にぶつけ、革新派だけでなく「政治改革」に慎重だった穏健派も、目前の課題の解決を求め政権交代を訴え始めた（青木・高橋 2022）。バンコク都知事・都議会同時選挙におけるチャツチャートの勝利とタイ貢献党の躍進は、こうしたプラユット政権に対する人々の不満を示したともいえる。

総選挙までに景気が好転し現政権への不満が緩和されなければ、現状からの「変化」を求める声がさらに高まり、「特権階級」支配や「民主主義」という争点と結びついて PPRP 体制の是非が強く問われる。そうすると国家運営能力を有し、現状を打破できると有権者が期待する政党が有利になる。下層だけでなく、不満を持つ一部中間層が経済発展と分配政策の実績があるタイ貢献党に期待したとしても不思議ではない。政治体制改革を抜きにすれば、反プラユットで一致するタイ貢献党と前進党の協力も考えられるが、その場合、タイ貢献党は政治体制改革への姿勢を改めて問われるだろう。政治体制改革を強調すれば、極端な改革を嫌う穏健派の票は他の中小政党に流れる。反対にタイ貢献党が PPRP と連携して前進党に不利な選挙制度を導入すれば、これを不服とする革新派の街頭行動が拡大する可能性がある。

一方で争点が「タクシン vs 反タクシン」に回帰する恐れもある。タイ貢献党は、タクシン人気に頼りつつ反プラユット票の獲得を目指している。タクシン自身も都知事選の結果を「民主主義の勝利」として下院選挙も同様の結果になると発言した（*Bangkok Post* 2022）。タイ貢献党が「タクシン復権」と「選挙民主主義」を重ねる戦術を再び採るならば、選挙による政権交代を求めるがタクシンは支持しない革新派や穏健派の票は、他の中小政党に向かうだろう。さらに反タクシン派を刺激し、政治は選挙とクーデタの循環に戻ることもありうる。

いずれにせよ、改正後の選挙制度と対立軸の組み合わせ如何により、選挙の流れは決まり、図 2 の政党間関係も再編されると考えられる。党派間の政権争いが続くのか、低迷する経済の改革や今後の国家体制などより本質的な問題を問う選挙になるのか。タイの政治は静かに重要な局面を迎えている。■

※この記事の内容および意見は執筆者個人に属し、日本貿易振興機構あるいはアジア経済研究所の公式意見を示すものではありません。

写真の出典

- 写真 1 （左・プラユット首相） 首相官邸ホームページ（[CC BY 4.0 / 日本政府標準利用規約（第 2.0 版）](#)）
（右・プラウイット副首相） U.S Secretary of Defense（トリミング加工あり）
（[CC BY 2.0](#)）
* 上記 2 点を並列。

- 写真 2 知花いづみ氏撮影。

参考文献

- 青木まき 2020.「立ち上がるタイの若者たち——『法の支配』の実現を目指して」『IDE スクエア』10月.
- 青木まき・高橋尚子 2022.「『政治改革』の後退と連立政権の内紛」『アジア動向年報 2022』アジア経済研究所、260-286 ページ.
- 重富真一 2010.「タイの政治混乱——その歴史的位置——」『IDE スクエア』5月.
- 重富真一 2020.「続くタイの政治混乱——あぶり出された真の対立軸」『IDE スクエア』1月.
- 玉田芳史 2020.「政党と内閣改造：第2次プラユット政権発足から1年」『タイ国情報』第54巻第4号、1-15 ページ.
- 船津鶴代・塚田和也 2021.「政治的緊張に揺れるプラユット政権」『アジア動向年報 2021』アジア経済研究所、260-286 ページ.
- *Bangkok Post* 2022. “Chadchart's win omen of 'democracy', says Thaksin,” 24 May.
- Marwaan Machan-Markar 2019. “All the king's men: Thai military power shifts away from Prayuth, Monarch's faith in rival faction sends clear message to coup leaders,” *Nikkei Asia*, 2 July.
- Rachakitchanubeksa (王国官報) 2021. vol.178, 21 November, 2021.
- *Thai Post* 2022. “‘supoeapol’ buet phonsamrwat ithiphon kanmueang kap phuwa kothomo,” (superpoll、バンコク都知事選挙の政治的影響について調査結果を公開) 7 May.
- *Than Setakit* 2022. “Prawat chadchat sitthipan wathi phuwa kothomo asapan krungthepmueang nayu,” (バンコクを住みたい街に バンコク都知事チャット・シッティパンの履歴) 22 May.

著者プロフィール

青木（岡部）まき（あおき・おかべ・まき） アジア経済研究所地域研究センター動向分析研究グループグループ長代理。専門は国際関係、タイ外交とメコン地域協力。主な著作に、青木まき編著『タイ 2019 年総選挙——軍事政権の統括と新政権の展望——』（アジア経済研究所、2020 年 3 月）、青木（岡部）まき「メコン広域開発協力をめぐる国際関係の重層的展開」（『アジア経済』第 56 巻 2 号、2015 年 6 月）。

注

¹ アピラット（2018 年就任）、ナロンパン（2020 年就任）ら直近の陸軍司令官は、いずれも

第1歩兵師団出身である (Marwaan 2019)。なお、同師団の中核である第1歩兵連隊と第11歩兵連隊は、2019年に国王直属の近衛部隊に移管され、国王の権限下にある。

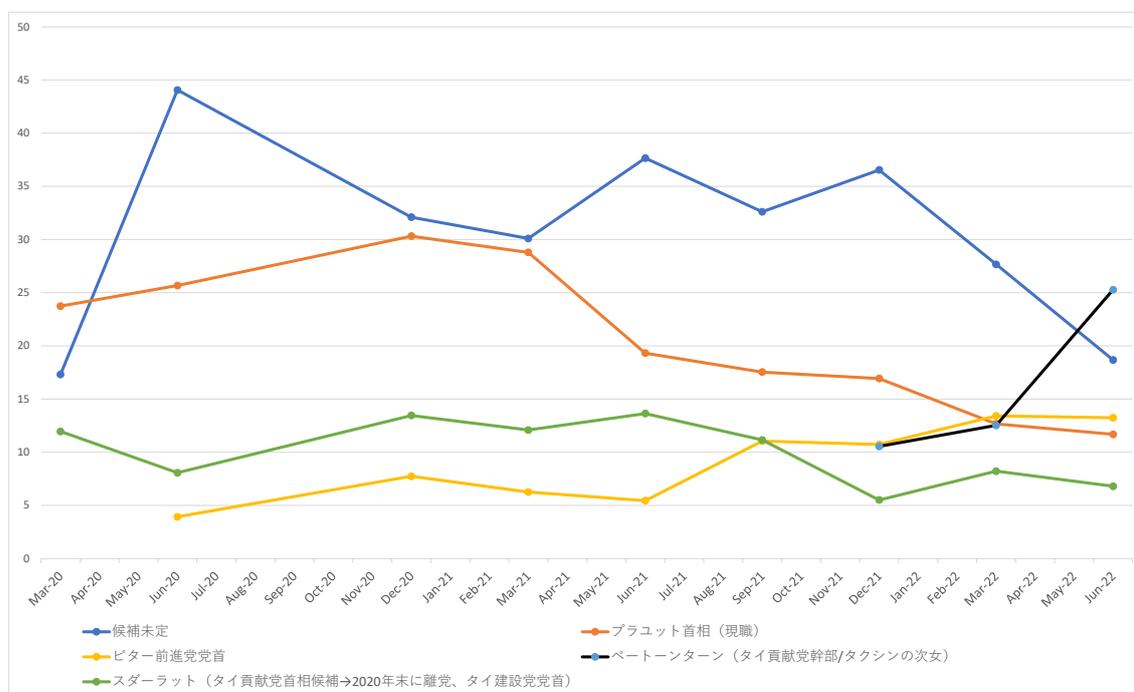
² 現行の2017年憲法159条(首相資格)には、首相の要件として下院議員資格を求める規定がなく、非議員が首相に就任できる。

³ 現にペートンターンは、幹部就任直後の2021年11月9日に、反タクシン派の活動家によって、タクシンとの関係や刑法112条(不敬罪)などを理由に国家汚職防止取締委員会へ訴えられた。

⁴ 投票前に世論調査会社 superpoll が実施した調査によれば、タイ貢献党支持者の33.2%、前進党支持者の28.4%、タイ貢献党から分派したタイ建設党支持者の21.0%、保守派で連立政権に加わる民主党の支持者13.8%が、チャットチャートを支持すると回答した (Thai Post 2022)。

⁵ [チャットチャートの公式サイト](#)を見ると、全公約216項目のうち、上位を道路整備(42項目)、都庁組織改革(35項目)、安全と環境、保健対策(各34項目)が占める。

図1 NIDA ポールによる「首相にふさわしい人物」の世論調査回答 (%)



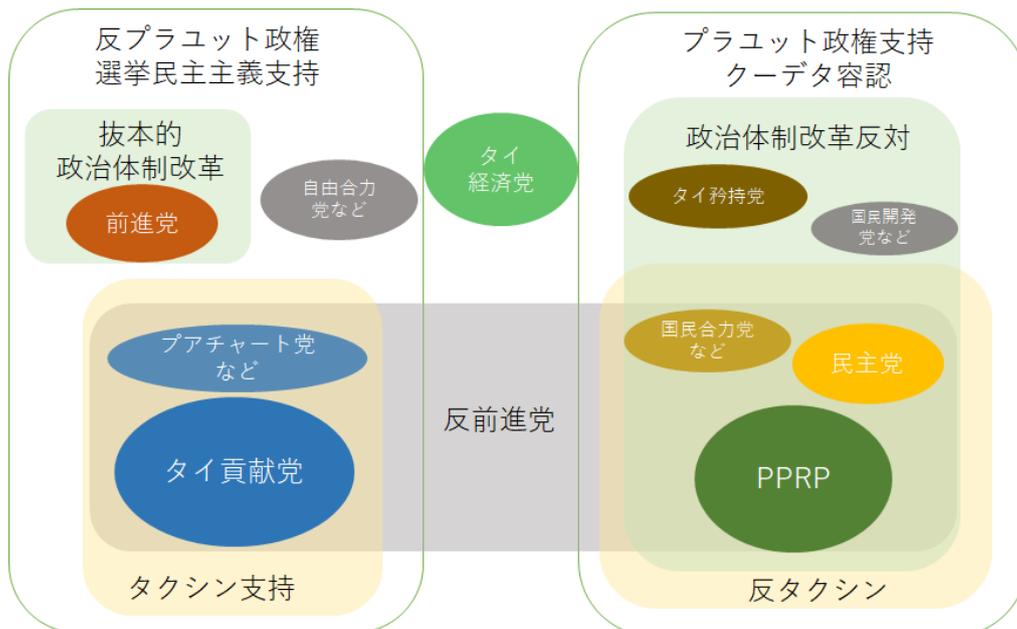
(出所) NIDA poll “kansamrwat khanaenniyom thang kanmueang raitraimat”
(政治に関する四半期世論調査)、2020年第1回から2022年第2回より筆者作成。

表 2021年に承認された2017年憲法改正の主要点

	改正前	改正後
第83条 下院の議 席配分	小選挙区選出議員350人 比例代表選出議員150人 投票用紙は小選挙区の1枚のみ。	小選挙区選出議員400 比例代表選出議員100 投票用紙は小選挙区と比例代表の2枚。
第86条 小選挙区 議員数の 配分	タイ総人口数/350(定数)=① 1小選挙区の人口が①より少ない場合、その選挙区の議席は1となる。	タイ総人口数/400(定数)=① 1小選挙区の人口が①より少ない場合、その選挙区の議席は1となる。
第91条 比例代表 選出議員 の議席数 配分	すべての政党の総得票数/500(下院定数)=1議員あたりの平均得票数(②) 各党が小選挙区で得た総得票数/②=各党の獲得できる議席数③ ③各党の小選挙区選出議員の議席数=比例代表選出議員の議席数。 詳細は付属法(下院議員選出法)で定める。	各党が得た総得票数をもとに、各政党の比例代表選出議員の議席数を算出。 政党名簿に記載された名前の順に選出。 詳細は付属法(下院議員選出法)で定める。

(出所) 仏歴2560年タイ王国憲法およびRachakitchanubeksa 2021より筆者作成。

図2 タイ政治の対立軸と各党の立場



(出所) 新聞報道などより筆者作成。



写真1 プラユット首相（左、2019年10月23日）とプラウィット副首相（右、2018年10月19日）



写真2 チャットチャートの選挙ポスター。標語には「統率力があり、仕事ができる。チャットチャートを知事に選ぼう」とある（2022年5月21日）。